

# 「民主市政 取り返したぞ」



東大阪市府所庁舎

## 東大阪市職労

「やったぞ！長尾民主市政の奪還だ」「暮らしをよくしたい市民の思いが接戦に競り勝った」。長尾淳三さんの当選のニュースに、市内のあちこちに歓声が沸き起こりました。7月2日の東大阪市長選挙で、「明るい東大阪をつくる会」や大阪自治労連・東大阪市職労が全力をあげて奮闘し、長尾淳三さんの当選を勝ち取ったのです。

東大阪市長選挙は、この間、1月には市政総括案を示し、4月には臨時大会を開催して長尾淳三さんの推薦をきめ、清潔、公正で働きがいのある東大阪にするために、全力をあげて奮闘してきました。「明るい東大阪をつくる会」が行った市政アンケートで、7割の市民が、「現市政に不満」を示し、小泉構造改革での、国民負担を強いる悪政や、現市政の市民に冷たい施策のなかで、長尾淳三さんへの大きな期待と切実な願い

## 東大阪市長選挙で大奮闘



組合員のがんばりと勝利を報告する 荒田委員長と長尾淳三さん(円内)

### 長尾淳三さんとともに 市民のための市政改革を

が寄せられていました。当選から2日後の7月4日には東大阪市長選挙の「市長選挙勝利報告集会」がひらかれました。会場には、各職場から、よろこびを満面の笑みにあらわして、組合員がぎっぎとぎとかけつけました。荒田功東大阪市長委員は「長尾民主市政の奪還に奮闘してくれた組合員はじめ多くのみなさんに感謝したい。激戦を勝ち抜いてきたのは、組合員や市民の粘り強いとりくみのたまもの。何とかしてほしいという市民の勝利だ。その苦勞が報われた思いがする。選挙期間中に配布した、長尾淳三さんの政策を書いたビラなどを幹部職員があらためて目を通している。8年前の民主市政の経験を生かして、引き続き

き奮闘したい」と、組合員のがんばりと支援の輪に感謝しつつ、今後のとりくみの重要性を強調しました。集会に駆けつけた大阪自治労連の谷真琴委員長は「8年前の実績がある。全力で支援していく」と。拍手と花束でむかえられた長尾淳三さんは「選挙期間中大きな手ごたえを感じていた。まさに、山が動いたと感じた。市民には小泉内閣のもとの痛みと犠牲を強いる政治に、あきらめの気持ちを持っている半面、怒りの気持ちも抑えたい。何とかしてほしいという市民の声を痛切に感じた。市民は明日の暮らしさえ気にやんでいるというのが現実だ。待たなしの市民にとっての改革こそすべきもの。職員もみんな市民の中に入っていくことが大事だと思う。市民に役立つ職員がたくさんいれば、『あんな職員を減らしたらあかん』と市民から声がかかるようになると思う」と強調し、『市民の中に、市役所が見える市政に』と率直な気持ちを語りました。

▼東大阪市長選挙の結果

長尾淳三	5万1821票
松見正宣	5万0842票
西野茂	3万8151票

公務、自治体リストラのもとで、公務員労働者の賃金がかんどん引き下げられるなかで、8月の2006年人事院勧告をひかえて、「賃下げ勧告をするな！生活改善の勧告をせよ」の声が高まっています。しかし、いま、人事院勧告にとって根幹ともいえるべき、「民間準拠」原則による官民給与の比較方法が、「小さな政府」と総人件費削減をめざす政府の方針のもとで、大きな見直し・改悪がすすんでいます。官民比較のありか

## 2006年人事院勧告に向けて 7月25日は第2次中央行動



### 「賃下げ勧告をするな！」 「生活改善の勧告をせよ」

たは公務員賃金の水準を大きく左右するばかりでなく、730万公務員労働者、さらに人間準拠で給与が決まる民間病院、保育所、社会福祉施設、私立学校など広範な労働者に影響をあたえます。人事院は、「官民給与の官民給与の比較方法ありかたに関する研究会」や「給与懇話会」などで、見直しの検討をすすめる、「1000人未満」の小規模企業の給与実態調査で、官民給与の比較をすすめています。公務労組連絡会・

自治労連はこうした「比較方法の見直し」に断固として反対します。賃金の低い層を比較方法にとりいれることは、人事院が公務員賃金を引き下げる宣言をすることであり、また、公務員賃金の引き下げで、民間の初任給や、非正規労働者の賃金をいっそう低賃金に抑えることになり、公務・民間の賃下げの悪循環でしかありません。こうした、賃下げの悪循環を断ち切る勧告こそ、いま必要なときです。

### 市民とともにつくる 「市民版市政改革 マニフェスト」づくりへ



大阪市労組が集会

大阪市のスタート集会は、大阪市内で、この間に大阪市長がすすめてきた市民と職員不在の「大阪市政改革マニフェスト」でなく、市民とともにつくる「市民版市政改革マニフェスト」づくりをすすめるスタートとなる集会をひらきました。集会には、大阪市労組組合員はじめ、市職員や市民がたくさん参加しました。開会のあいさつで、大阪市長の成瀬明彦委員長は「一昨年から大阪市の問題の背景にある新自由主義・小泉構造

改革の特徴は、①国民負担増と自治体財政しめつけ、企業優遇の財政改革、②市場をいっそう開放させる規制緩和のふたつ。JR事故、耐震構造偽装、ライブドア、すべてここからきている。トップダウンの大阪市政改革でなく市民からの市政改革」と強調しました。基調報告に立った中山直和副委員長は「今の市政改革マニフェストの本質は、財界の意を受けた経営コンサルタントによる、市財産の民間企業切り売りでしかない。

今日のスタート集会は、職員、市民、労働組合、団体とともに持続可能な大阪市政の実現をめざすビジョンづくりの「第一歩」と、共同のとりくみを強調しました。大阪市政の各分野からの報告では、「財界は市営交通の完全民営化を掲げている。交通の赤字は建設費。このまま民営化では市民の財産が売られて借金だけが残る（大阪交通労働者）」「2100人の水道職員の三分の一を削減し

ようとしている。職員には人事評価制度で選別（大阪市水道労働者）、「大阪市の学校給食は自校調理方式が特徴。教職員もそれなりに配置させてきた実績がある。いい面を維持させ、30人学級の実現を」（学校教職員）と実態が明らかになりました。フロアからも発言があり、大阪市政の実態と認識を共有して、引き続きとりくみをすすめることを確認しました。

### 今月のキーワード

坂田藤十郎

初代坂田藤十郎(1647年～1709年)は元禄時代に上方で近松門左衛門とのコンビで活躍した役者。三代まで。人間国宝で上方の歌舞伎役者である中村雁治郎が、231年ぶりにこの名跡を襲名し、四代目坂田藤十郎になりました。襲名披露公演は昨年12月の京都・南座、今年1月の東京・歌舞伎座、2月の福岡・博多座に続き、この7月には地元の大阪道頓堀の松竹座での公演がおこなわれています。

### 今月のキーワード

天神祭

神田祭(東京、5月)、祇園祭(京都、7月)とともに日本三大祭のひとつ。大阪自治労連書記局のある大阪グリーン会館のすぐ近くの大坂天満宮で催される祭りです7月24日宵宮、25日本宮です。25日は、大川(旧淀川)に多くの船が行き交う船渡御(ふなとぎよ)が行われ、夜には花火大会も。大川に映る灯り、花火などの華麗な姿などで、火と水の祭典とも呼ばれています。他に陸渡御(りくとぎよ)などの神事が行われます。